

東中国キリスト者

隣り各共に学び共に担いぬ

シャローム



第五号

二〇二二年七月九日発行

目次

説教	浜田美世子牧師	(1)
ヘルパーさんありがとう		
全国千障協顧問 沢沢 久		(4)
岡トモコさんのお別れ会に参加して		
「それでも一緒に歩いていく」を紹介	難波幸矢	(4)
会計報告	難波幸矢	(5)
編集後記	清水章文	(7)
	難波幸矢	(8)

説教

「豊かに霊を受けよ」

エゼキエル書37章7〜14節

使徒言行録1章8節

日本キリスト教団

豊島岡教会牧師

浜田美世子

今年には新型コロナウイルスの感染拡大によつて、日常生活も礼拝も閉じこもりがちになりながら、それでも五月三日にペンテコステ礼拝を捧げました。復活日から数えて五十日目です。復活日が日曜日ですので、聖霊降臨日もちょうど日曜日になります。聖霊が降りてきて、弟子たちに臨んだという日です。聖霊という言葉は私たちの日常生活にはなじみませんが、聖書にはこの言葉がたくさん出てきます。旧約にもたくさん使われています。

旧約では、「霊」という言葉と「風」という言葉と「息」という言葉は同じです。見えないけれどもそこに力が働いて、命を与えていく。その力は神から来ると考えられていました。

創世記に「初めに、神は天地を創造された。地は混沌であつて、闇が深淵の面

にあり、神の霊が水の面を動いていた。」とあります。霊という言葉が使われます。それから、次の章で神が土の塵でアダムを造ります。「その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となつた。」この時の「息」です。

そしてさらに三章で、「その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。」この「風」です。霊も、息も、風も同じ言葉が使われます。どれも見えない。けれどそこに神が存在し、その神が命を包み込み、神がそこにおられるということを現わしている——イスラエルの人々はそのように霊を理解していたのです。見えないけれど、ありとあらゆるものを根底から支えているもの、存在——を霊と呼びました。

小学生のころ、音楽の時間にたぶん二、三年生くらいだったと思うのですが、「風」という歌を習いました。どういふわけかこども心に素晴らしいと感じて、ずっと覚えていっています。

誰か風を見たでしょう

僕もわたしも見やしない

けれど木の葉をふるわせて

風は通りぬけていく

だれが風を見たでしょう
 僕もわたしも見やしない
 けれど木立が頭をさげて
 風は通りすぎていく

そうか風は見えないけれど、木の葉や木立をゆすって通り過ぎていく。そのときに風が吹いている、風が存在するのだということに気づくのだ、と単純に理解していたのです。

大学生になって、イギリスの詩を読んでいた時に、この詩に再び出会いました。一九世紀の詩人クリステイーナ・ロセツティという女性の詩だったということを知って驚きました。そして、この詩は、単に風のことを詩っているのではなく、まさに神からの霊が働いて、すべてのものを動かしているという詩なのだと思いがつきました。見えないけれど、確かに働いて、激しく揺さぶって、そのものを動かしている、そういう力があるということとを教えられたのです。

選びましたのはエゼキエルという預言者の言葉です。エゼキエルという預言者が活躍したのは、イスラエル国家がバビロニア帝国に滅ぼされて、王や高官たち

や指導者たちが、バビロニア帝国の首都バビロンに連れて行かれたという、いわゆるバビロン捕囚と呼ばれている国家滅亡の時代です。イエスが生まれる六百年近く前になります。

エゼキエルという人はエルサレム神殿の祭司でした。バビロニア帝国との戦いに負けて多くの人々と共に、バビロンに連れてこられました。そこでも、連れてこられたイスラエルの人々の指導者だったようです。

祭司だったエゼキエルは、バビロンの町で神の言葉を聞くという体験をします。預言者となったのです。預言者というのは、言葉を預かると書きますね。神の言葉を預かってその時代の人々に、伝える役割をする人を預言者と呼びます。

選びました箇所には「枯れた骨の復活」と見出しがついています。エゼキエルの見た幻が描かれています。主に連れていかれた谷には枯れ果てた人の骨で埋め尽くされていたというのです。三十七章一節で、主の手がエゼキエルの上に臨むのです。彼は主の霊によって連れ出され、ある谷の真ん中に降ろされます。そこはおびただしい骨で埋まっていました。それはバビロニアと戦って戦死したイスラエ

ル民族の兵士たちのほったらかしにされたままの骨であったというのです。

主はエゼキエルに問いかけます。「これらの骨は生き返ることができるか。」と。エゼキエルは何と答えてよいのか分りません。「主なる神よ、あなたのみがご存知です。」と精一杯の答えをします。

神は枯れた骨に向かって語りかけます。「見よ、わたしはお前たちの中に霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る。」不思議な言葉です。死んで何十年もたった枯れた骨が、神の息吹を吹きかけられると生きる者となるというのです。面白いですよ。こう書かれています。「私はお前たちの上に筋を置き、肉を付け、皮膚で覆い、霊を吹き込む。するとお前たちは生き返る。そしてお前たちはわたしが主であることを知るようになる。」

古代のイスラエル民族は、人間は神の息を吹きかけられている間は生きていてと理解しました。息も霊も同じ言葉です。日本語も同じですね。「息」が吹きかけられている間、人は「生き」ていると考えたのです。息と生きるは同じです。

エゼキエルの見た幻も、すでに死んだ

者たちが、神の息によって、霊によって生き返るのです。ここでは、一人一人の人間のことを言っているのではなくて、民族の復活を語っています。バビロニア帝国によって滅ぼされた神の民イスラエルは、やがて神の息によって、神の霊によって、再び祖国に帰ることができるといふ希望を幻の中に見たのです。

さらに、「また、わたしがお前たちの中に霊を吹き込むと、お前たちは生きるとわたしはお前たちを自分の土地に住まわせる。その時、お前たちは主であるわたしがこれを語り、行ったことを知るようになる」と主は言われます。

エゼキエルは神の霊が、イスラエル民族に吹き込まれるときが必ず来る。その時には、この囚われ人たちが解放された後、祖国に神の約束の土地に帰ることができると理解したのです。

そして後にそのようになるのです。神が約束を履行されるのです。預言者も、敵の国に連れてこられたイスラエルの人々も、神の約束に生きました。神が私たちに豊かな霊を注いでくださるとき私たちは神と共に、神に約束の土地で再び生きると信じ続けたのです。

私たち、二二世紀に生きる者にとつて、なんと**うばかばかしいおとぎ話**だと受

け取るでしょうか。たぶんそうだと思うのです。聖書は現代人が失った、あるいは捨ててしまったものを語り続けます。目に見えないけれども、確実に存在するものがあるということを理解しておくことは非常に大切で、この世界は目に見えているものだけで成り立っているではありません。

現代人は目に見えている社会だけがすべてだと思つています。ですから、神や永遠の命というような見えないものにはなく、お金や、地位や、学歴を追い求めそれらをあたかも神であるかのように偶像崇拜します。それらを追い求めて、作り出した今の時代が本当に幸福かと問われたら、これが追い求めてきた人間の世界かと問われたら、ちょっと違うなあと思うのです。

傳そつに私たちは別の世界に住んでいると**う**いうようなことは言えません。私たちがもどつぷりとなつて生活しています。けれど、それにもかかわらず、やはり目に見えないけれども、確実に存在するものがあるという世界を受け入れて生きるのです。神がおられる。その神は私たちを限りなく愛しておられる。私たちはその神の子として、できるだけ誠実に、隣人に心を配りながら・・・不十分ではあ

るけれども、生きて行く。イエスが「二人、三人集まるころに私も共にいる」と言われた交わりを作り出しながら生活していくのです。

天に上げられる前に、イエスは弟子たちに向かつて、「あなたの方の上に聖霊が下ると、あなた方は力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリヤの全土、また、地の果てに至るまで、私の証人となる。」と約束してくださり、約束のとおり聖霊をくださったのです。「一同は聖霊に満たされ、一人一人の上にとどまつた」と聖書は記します。そしてあらゆる言葉で語りだすのです。互いが互いを理解する言葉が与えられたのです。エゼキエル書のようにイスラエル民族に対してではなくて、イエスは一人一人に聖霊を与えてくださったと聖書は記しています。私たちも同じなのです。

そして聖霊から来る豊かな実りにあずかるのです。パウロという人は聖霊の実とは何かと**う**いうことを記しています。「霊の結ぶ実**は**愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です」と教えて、さらに、「私たちは霊の導きに従つて生きているなら、霊の導きに従つて前進しましょう。」とガラテヤ書の手紙の中で勧めています。

聖霊を豊かに頂いているのですから、私たちが豊かな実を結ぶように生きて行きますように。見えない風が、木の葉を揺さぶるように、聖霊は私たちの魂を揺さぶってよりよく生きよと語りかけていてくださるのです。



「ヘルパーさんありがとう」

全国キ障協顧問

渋沢久

入浴介助をありがとう。
スケボーのような台に私の身体を載せて洗い場に行き、頭からお尻迄洗って下さりありがとう。

バスタブから引き揚げて下さり、ありがとう。教えられたとおりに組んだ私の腕を握り、あなたが踏ん張っていることを私はあなたの指先から感じとっています。
トイレ介助をありがとう。

電話をすると快く、「20分後に伺います」とお受け下さり、ありがとう。

あなたは約束通り20分後にやってきて

パンツを上げ、ズボンを整えてくださいます。上手く排泄が出来ない時には、「無理しないでください、いつでも来ますから。」と言って下さりありがとう。

通院介助をありがとう。

時間通りに往復して下さり、行きと帰りの道を変え、私に季節ごとに変わる木々の様子を見せて下さりありがとう。お陰で穂が穂を垂れる田んぼ、雪のある山を見る事が出来ました。

トイレ介助に来て下さる時、「虹が出ていましたよ」と言って、スマホで見せて下さったことがありますね。

自然との触れ合いもあなたは用意して下さっているのです。ありがとう。

時々私はぐちをもらします。浮腫んだ足での生活、いくつかの病、その予後を嘆くのです。そんな時あなたは「私が丈夫な限りいつまでもお手伝いします。一緒にオリンピックを見ましょう。」とおっしゃってくださいます。

こうして未来への安心感と生きる力を与えて下さるヘルパーSさん。本当に有難うございました。

人は弱い存在です。世の人が皆私たちのような関係を与えられることを祈らずにはおられません。Sさん、あなたからそんなことを学んだ私の一年でした。

岡トモコさんのお別れ会に参加して

難波幸夫

岡トモコさんは長い間キ障共の役員でした。しかし役員会の時間と訪問ヘルパーさんの来宅時間とが合わなかったり、この十年余は病氣もいくつか抱えることになり役員は退かれました。しかしキ障共への関心がなくなったわけではなく、むしろ積極的に講演会や集会などの講師選びには意見を出してくれました。日頃からラジオ伝道などは欠かさず聞いていたこともあって、次の講師は〇〇先生にしてほしいなど、譲らない構えが見えるほどでした。そしてふさわしい講師をお招きすることになったのです。

現在の教会にたどり着くまで、いくつかの教会では、盲人の彼女に対してどう関わっていいか分からず遠巻きに見ている感じの教会もあったかも知れません。また親しくなってみたら何に対してもはつきりした意見を言うので煙たがられたり、障害者のくせに生意気だと無視されてきたように思います。親切丁寧にしてあげるのだから、貴方は受けていればいいのよと言わんばかりの押しつけ親切に

「ありがとう、すみません」と言い続けるしんどきと、何よりも対等じゃない関係に「ここに自分の居場所はない」と感じて去ってしまいました。そして「幸矢さん、行く教会がない」と叫んできました。

しかし2003年4月から通い始めたこの最後の教会(岡山のめぐみキリスト教会・草井琢弘牧師)は、はつきりと譲らないで主張し続ける彼女を受け入れて下さいました。もっとも、初めから上手にいったわけではなく、よく日曜日の夜に「幸矢さん、こういうことがあったけれどどう思うか」と電話があったものです。そういう点、教員と岡さんと両方が辛抱しつつ理解が深まり許し許される関係を築いていったのだと思います。

彼女の遺言では葬儀をしない事になっていましたし、岡大に献体することも以前から聞いていたのですが、お別れ会をしますとのお誘いを受けました。4月25日(日)午後3時から一時間程度という事で人数制限もありながらの会を開いて下さいました。

20人制限の中には、教会関係者よりヘルパーさんだったり、岡さんのお母さ

んの代からのボランティア関係の方だったりの方々が半分以上いらっしやったように見受けました。式次第の賛美、祈禱、聖書、賛美、主の祈りは短く、奨励も奨励というより岡トモ子さんの詳しい病気の経緯がほとんどでした。そのことが教会を超えて参加者それぞれが彼女の一部分として関わっていたことを確認。そしてそれぞれ関わった部分でのエピソードを語りました。

私も、盲人四姉妹の楽しい思い出を話しました。リーダーはもちろん岡さんですが恒国米子さん、小野雪子さん、木原信子さん。4人の盲人姉妹はそれぞれ元気で仲が良く、4人を乗せて高知まで旅行をしたこともありました。線路が通っている大きい横断歩道を、それぞれ前の人の肩をもってつながって、転びもしないで一気に小走りで渡ったことなども話しました。そうそう手作り音楽会では岡さんの作詞に難波が作曲をしたことも伝えました。これはなかなかの人氣になりましたが、草井先生が後で楽譜をコピーされました。仲良し四人組の方々はそれぞれ天国へ。ご存命の姉妹は小野雪子さんだけになりました。現在はキ障共からは離れていらっしやいます。40代だった雪子さんも60歳とか。私だけ年を取

っているのではないのですよね。

本当に良いお別れ会になったと心から思いました。草井先生他教会の方々に感謝。

それでも一緒に歩いていくを紹介

難波幸矢

5月25日「牧ノ原やまばと学園50周年記念誌」が長瀬道子さんから送られてきました。彼女とは先に「行き詰まりの先にあるもの」と題して出版した時の共著者であり、共に日本キリスト教団の社会委員会のメンバーでもあった方です。題は「それでも一緒に歩いていく」です。50年の間にどれほどの試練があったか。最も大事で文字通り代表だった夫で理事長が病気のため最も重い障害者になってしまふ。なんとという無念で受け入れがたく悲しい出来事だったことか。それでも3年後にはご自分が理事長に。

はじめは、障がい者の施設が、どの施設も迫ってきたであろう言葉「悪い事をするこやまばと学園へ入れるよ」と言わ

れたり、町の小学生は散歩中のやまぼとの子供と出会うと逃げるような状況でした。しかし現在は近隣の土地に31の事業所（希望の家、老人ホーム、デイサービスセンター、ケアセンターさんか、小規模作業所など）を持ち、スタッフ総人数470人を抱えるまでに成長している姿に、本当に驚きでいっぱいになりました。

何よりこの著書が、度々想定外の出来事に直面しながら、まさにキリストを信じ、祈り、障害を負った当事者側の思いに立つところから歩んでいることが見えてきます。分かりやすいキリストの言葉がちりばめられていると感じました。皆さん悩んでいることがあったらこの本を読んでみて下さい。2千円です。でも2万円の価値があります！いえお金では表せません。

文章の中から一つそのまま紹介させて頂きます。コロナ禍の現在、礼拝に行けない方は、代わりにこの本を読まれるのも一つの礼拝であり祈りにつながっていきます。

【生きる希望を与える詩人】

ケアセンターさんかの利用者鈴木千奈津さんがインフルエンザによる肺炎で急逝されお通夜と葬儀が営まれました。

千奈津さんは小学校2年生の時の脳の動脈瘤摘出手術で血管が破裂し、四肢マヒや言語障害がちなこの重いハンディを負う身となった人です。……リハビリに努め、手に鉛筆をもって支えてもらえば字が書けるようになりました。……字を書くことで、自分の願いや意思を外に向かって発信できるようになりました。……ささやかな仲間との触れ合いがとても楽しかったように、笑顔がよく見られました。

そういう中から、「表現できない人の代弁者になろう」という使命感が自然に生まれてきたのでしょうか。……彼女の死を悼んで大勢の人々が集いました。もし千奈津さんが健康で聡明な高校生として成長していたら、これほど多様な人々を結びつけることが出来たでしょうか。車いすとベッドが主な活動範囲だった彼女の人生が、自由に動き回る人の人生よりもはるかに多くの影響を残したことに、私は神の不思議な摂理を覚えました。重い障がい者としての道を望む人はいないでしょう。しかし、その道は不幸に至る道ではなく、喜びと生の充実にもなり得ることを彼女は示してくれました。

参列者に対するお父さんのこんなご挨拶も、とても印象的でした。「千奈津は障がいを負って以来、言葉で表せないほ

どの素晴らしい出会いや体験を致しました。千奈津の詩が絶望していた人に励ましを与え、自殺を思いとどまらせたり、生きる希望を与えるのを知って、我が子ながら特別の使命を担って私どもに授けられた存在のように思えました。こんなに早く壊してしまつて申し訳ありません」

葬儀の帰路、やまぼと学園の園児だった長男の義隆君をしくされた富永和子さんに「お父さんが申し訳ありませんと言われましたね」と言うと、彼女は「お父さんの気持ちが私にはよく分かる。私もヨッチャンが亡くなった時、やまぼとの人たちが大切に育ててくれていたのに、こんなことになって申し訳ないと思ったもの」と言われました。

重い知的障害を負った人々は、千奈津さんのような創作活動はできなくても、それぞれ、なくてはならない役割を担っています。家族をしつかり結びつける役割を果たしている人もいれば、その存在ゆえに、両親も兄弟も福祉施設スタッフになつたり、医療従事者へと変えられていった場合もあります。重い知的障害を持った養姉のみぎはさんも、弟の長澤巖に「やまぼと学園」建設の願いを起こさせる存在となつたのです。

障がいを抱える家族の苦悩や喜びは、

会 計 報 告

2021年 3月～4月

シャローム152号 7

会計 清水章文

収 入		支 出	
会費(25名) (会費累計76名)	52,000	行事費	2,000
	10,000	地域交流会	「平和の波おかやま」21年度会費
シャローム			24,910
編集関係		原稿謝礼(平田義牧師、森晋一郎牧師)	12,000
印刷関係		用紙代、151号印刷・コピー代	4,088
発送関係費		151号(ヤマト運輸)	8,822
会議費			5,420
交通費		役員会(3/11)	3,420
会場費		役員会(3/11)	2,000
通信費		役員活動通信費	30,000
事務消耗品費		書留郵便代	659
鳥取活動費		20年度分	70,000
慶弔費		故園千子記念会(岡山めぐみキリスト教会へ)	2,000
小 計	62,000	小 計	134,989
前月より	281,955	次月へ	208,966
合 計	343,955	合 計	343,955

〔会費・献金の納入を、感謝申し上げます。〕
個別の領収証を希望される方は、速慮なくお申し出ください。従来通り送付いたします。よろしくお願ひいたします。

(敬称略・順不同)

4月末現在資金残高	
定額預金	0
普通預金	168,356
振替口座	2,283
現金	38,327
合 計	208,966

(年会費)

(日キ琴浦教会)片山厚子、佐藤孝志、近藤英子、井口允、井口良子、高岩龍二、曾我洋一、曾我和我子(以上20年度分)、藤原美恵子(19、20年度分)
(日キ蕃山町教会)弘中余糸子、岡野繁子、密田真理子、大田元子、田中望(以上20年度分) (日キ倉敷水鳥教会)小松原昭子、北村静恵、嶋崎令子、武文千恵子、谷野健、谷野順子、保津瑛子、山口真知子、宮田博子、渡辺文子(以上20年度分) (日キ赤磐教会)片山泰充(21年度分)

(賛助会費)

日キ光明園家族教会 日キ倉敷水鳥教会ナルドの会

以上



第三者には計り知れないものがありますが、家族の連帯と絆、共に歩む姿からはいつも多くの事を学ばれます。私どもの仕事は、ハンデイを持っていても、高齢で病弱になっても、日々、その人らしく歩み、喜びと充実感に満ちた人生を味わえるよう手助けすることだと思います。

現実にはいったいどう対応したらいいのか戸惑うような困難なケースもありますが、逃避することなく現実としっかり向き合っていくとき、最も相手を助けることができ、自らも成長する体験をさせてもらえるのでしよう。

編集後記

難波幸夫

愛するキ隣共会員の皆様、いかがお過ごしですか。コロナ禍で長く緊張している上に、季節とは言え、むしむしとした日が続いています。しんどさや不快感が幾重にも重なって何ともしんとい状況です。

私は光明園家族教会の長老ですが、以前にも申し上げたかもしれませんが、昨年の4月から1年2か月間、自分の教会で礼拝を守れない状況です。ハンセン病療養所の中の教会として、療養所園長が大事を取って外からの入所を全面禁止しているからです。そのような中で教員が亡くなられ、代務を下さっている大塚教牧師に葬儀をして頂いた時と、せめてクリスマスくらい、せめてイースターくらいと、ちょっとだけ礼拝が許されましたが、今後いつ解放されるのか先が見えません。完全にコロナ収束が宣言されるまで光明園への入所・礼拝は出来な

いと思います。
翻って、同じ長島の中にある長島愛生園の福音教会は礼拝が続いています。7月15日(木)には親しくしていた方の一周忌なので、よそ者(お隣さん)です

が出席させて頂けます。(そのことを大嶋牧師に伝えたと、「親族も喜ばれることでしょう」と言われました。)園外からの訪問が長島愛生園は可能なので、園長次第というのも、当事者としては悔しいものがありますがしかたありません。これがハンセン病療養所の現実です。

話は変わりますが、私は岡山平和推進協議会のメンバーなのですが、毎年6月29日を挟んで1週間、「岡山市民平和祭」として「6・29岡山空襲展示会」を開いています。今年も岡山エキチカ広場で岡山市の63パーセントが焼け、

1700名以上の人が亡くなった状況の展示をしました。加えて今年には広島の高校生たちが、原爆で被害を受けたお年寄りたちの証言を、しっかり聞き取って絵にした34枚も展示。伝える方も、聞いて描く方もどんなに熱心だったか分かるような力作ぞろいの絵が並べられました。通路に向かって「6・29岡山空襲の展示をしています。どうぞご覧ください。今年は広島の高校生の絵も展示しています」と声を枯らすほどには叫ばないけれど一生懸命訴えました。来年もまた聞きます。平和運動はやり続けなければ

なりません。来年は40周年です。というように、コロナだなんだという割には、ハンセン病隔離政策を映画で残さねばとか、なんだかんだで最小限必要なものには出かけています。少し岡山のコロナ患者数も減りつつありますね。気を許さず大事に過ごしましょう。皆様お大切に。



「シャローム」第二五号
発行日 二〇二二年七月九日
発行所 東中国キリスト者隣書を
共に学び共に担う会
発行人 事務局長 難波幸夫
〒703-1181 六五
岡山市中区倉田五八八-一
電話 〇八六一七六八-四八七
振替 〇三三〇〇〇九〇七六九
加入者「東中国キ隣共」